CEFR の「仲介」の章を読む（1）
「3.4.1.1. ノートテーキング（講演、セミナー、会議など）」

第 172 回関西スペイン語教授法ワークショップ（TADESKA）例会

日時：2024 年 7 月 6 日（土） 10:50 - 12:40

場所：関西学院大学梅田キャンパス 1406 教室

担当：小川雅美

Lectura de la sección de "mediación" (1):

Tomar notas (conferencias, seminarios, reuniones, etc.)

CLXXII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Sábado, 6 de julio de 2024, de 11:50 a 12:40

Lugar: Universidad Kwansei Gakuin, Campus de Umeda, Aula 1406

Moderadora: Masami OGAWA

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

今年度の TADESKA のテーマである Mediación y colaboración のうち “mediación”（以下「仲介」）は、2021 年にネット公開された *Marco común europeo de referencia para las lenguas: aprendizaje, enseñanza, evaluación. Volumen complementario*[1] （以下『CEFR 増補版』）で扱われている主要な概念のうちの 1 つである。今年度の例会では、「仲介」をテーマとした発表やワークショップ活動と並行して、『CEFR 増補版』そのものの講読をワークショップ形式で行うことになった。2 月と 6 月に、江澤照美氏がこの増補版についての紹介と基本概念への導入的なお話をしてくださったので、今回は、基本概念への理解を深めつつ、より具体的な記述にアプローチすることにした。本ワークショップの前半では、『CEFR 増補版』における「仲介」の位置づけ、その構成要素、そのうちの特定の能力（「ノートテーキング」）という順に本文を担当者が要約した。後半では、グループに分かれて「ノートテーキング」の能力記述文を読み、自由に話し合ってもらった。話し合った内容を集約する方法として、Google スプレッドシートを用いることを試みた。

本報告では、当日行った内容を具体的に述べ、例会の実施後の担当者による考察を記す。

---

[1] 原典は Council of Europe (2020), *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment – Companion volume*, Council of Europe Publishing, Strasbourg の英語と同じ内容のフランス語版である。2021 年にそのスペイン語訳版が公開された。日本語版もネット公開されているが、この例会の時点では日本語版の存在を知らなかったため、スペイン語版に依拠している。

1.　担当者による要約[2]

1.1.　『CEFR 増補版』における「ノートテーキング」の位置づけ

言語能力については、2001 年に公開された『CEFR 初版』で詳細ではあるがやや未整理の状態で記述されていた。一方、『CEFR 増補版』においては、言語能力の全体像をシンプルな図で示している(『CEFR 増補版（スペイン語)』(2021: 42)。この報告では拙訳にて次の図に示す。

図　「言語能力の総体」に位置づけられた「仲介」能力（『CEFR 増補版（スペイン語版)』(2021: 42)の拙訳

『CEFR 増補版』では、言語能力が具現化する「言語コミュニケーション活動」と、活動を成功させるために用いられる「言語コミュニケーション方略」が対になっている。これらには、「理解」「表現」「相互行為」「仲介」というより具体的な 4 つの活動が位置づけられている。今回の講読では、「言語コミュニケーション活動」の中の「仲介」を読解対象とし、「方略」は除外した。

『CEFR 増補版』においては、「仲介」する対象を「テクスト」「概念」「コミュニケーション」の 3 種類としている。本ワークショップを準備・実施した当時、担当者は「仲介」も含むこれらの用語の『CEFR 増補版』における意味と、一般的に使われている

[2] ワークショップには日本人とスペイン語圏ネイティブ教員が出席していたため、提示資料はスペイン語を用い、口頭発表は主に日本語で行った。

これらの言葉との意味との違いを明確に認識できていなかった。そのような段階でこのワークショップを行ったため、この 3 種類のうち最も具体的にイメージしやすい「3.4.1.1. テクストの仲介[3]」を取り上げることにした。「テクスト」とは、通常は文字列を指すと思われるが、『CEFR 増補版』では、言語として産出されたものであれば、書記でも音声でも「テクスト」と呼んでいる[4]。

「テクストの仲介」の項には、次の項目について、能力尺度の表とその解説文が掲載されている。

- 特定の情報を伝える。
- データを説明する。
- テクストを要約したり説明したりする。
- ノートを取る。
- 創造的テクストに対して個人的な反応を表明する。
- 創造的テクストを分析したり批評したりする。

このうち、担当者は、「ノートを取る（ノートテーキング）」という具体的な行為に着目した。2024 年 2 月に TADESKA で実施した「第 15 回関西スペイン語教師の集い」における基調報告で、その報告者が学生を引率してコロンビアで研修を行った際学生たちが現地の人々の話を聞きながらメモを取ることがなかなかできていなかったと述べていた。『CEFR 増補版』の「仲介」においては、ノートテーキングは自分の備忘録のためではなく、他者のために聞き取ったことを書き留めて見せるためのものである。その点では研修中の学生にとって困難であったメモ取りはノートテーキングそのものではない。しかし、自分のためにメモを取ることができなければ、他者のためにメモを取ることはますます困難と言わざるを得ない。

1.2. 「ノートテーキング（講演、セミナー、会議など）」の概要

『CEFR 増補版（スペイン語版）』の 118 ページに掲載されている表で記述されている技能は、「意味理解の鍵となる情報を把握する」、そして「その情報に関連するメモ（もしくはノート）を書く」の 2 つである。これらは、学術・職業の活動において重要であるとしている。次に、表の内容を理解するための鍵概念をいくつか挙げ、それらの能力のレベルを概略的に述べている。

---

[3] 「3.4.1.1.」の意味は、「3. 外国語コミュニケーション活動における能力の尺度」＞「4. 仲介能力」＞「1. 言語コミュニケーション活動」＞「1. テクストの仲介」である。この増補版の内容を理解するためには、個々の文章とともに全体の構成を把握する必要がある。

[4] CEFR における「テクスト」の定義については、2001 年の初版（日本語版では 2004 年の版）ですでにそのような意味内容で定義されている（2004: 103）。

1) 情報源のテクストの型
実演[5]・指示＜[6]平易な内容の講演・仲介者が専門とする分野の会合
＜複雑かつ仲介者が知らない話題についての会議や研修

2) 演説者もしくは手話[通訳]者の伝え方
明快でゆっくりしたスピーチ（メモを取る時間あり）＜構成がしっかりし、明快に述べられた講演＜いろいろな情報発信元[7]

3) メモの取り方
要点を列挙したメモ＜仲介者にとって最重要と思われることについての書き込み＜メモすべきことと省くべきことを適切に選別

4) メモの正確さ（高レベル）
仲介者自身が使用するのに適したメモ書き＜仲介者の専門分野についての会合で取った正確なメモ書き＜抽象概念、考えの相互関係、含意および暗示の正確な把握

1.3 担当者の疑問

このセクションは、「ノートテーキング」の場を、講演、研修、会議などに限定している。これでは私たちが教えている学生たちの多くとはご縁がないようにも思える。そこで、notas という用語がよく用いられている、増補版の「3.3.1.2 メモ[8]・メッセージ・書式」の表（2021:97）との比較を行った。3.3.の「相互行為」では C レベルの記述文が欠けており、3.4.の「仲介」では A1 レベル以下の記述文が欠けていることがわかった。本ワークショップへの参加者の多くは、日本で初級つまり A レベルの受講生にスペイン語を教えている。となると、受講生の能力と「ノートテーキング」の能力との間に乖離が生じているのではないだろうか。そこで、担当者は次の疑問を提起した。

1) 会議などフォーマルな部分ではない場面において、なぜ A レベルの記述文がないか[9]。
2) そうであれば、初級の学生たちはノートテーキングに関する活動を何もで

---

5 スペイン語版では presentaciones であり、「発表」も意味しうるので疑問に思い、英語版（2020: 105）を参照したところ、demonstrations となっていたので、こちらの意味として「実演」を和訳として採用した。

6 ここで「A＜B」は、「A よりも B の方が高レベルの能力を要する」ことを表す。

7 スペイン語版では “hasta diversas fuentes” (2021: 118)、英語版では “to multiple sources” (2020: 105)。ややわかりにくいが、伝え方に言及していることから、たとえば、聞き取りにくい内容のスピーチを婉曲的に意味していると思われる。

8 この実施報告では、notas を、第 3 章第 3 節（「相互行為」）では「メモ」、第 3 章第 4 節（「仲介」）では主に「ノート」と訳出した。それぞれの文脈からの判断によるが、第 3 節と第 4 節では書き取りをする能力にずれが見られ、文脈を仲介者自らが再構成するかどうかに違いがあるように思われる。

9 書式への記入は「相互行為」では能力とされているのに、誰かのために書式に記入してあげることは「仲介」の能力には含まれないのか、という疑問を担当者は持った。

きないのか？

3) 学生たちは、自分が仲介者にならなくても、仲介を受ける側として、仲介活動に何か協力できることはないだろうか。

2. グループごとの読解とコメント

ワークショップでは、次に、参加者 12 名を 4 つのグループに分けた。そして、「ノートテーキング」についての能力尺度の表のそれぞれのレベルを、4 つのグループに振り分け、グループごとにそれらの内容について理解するために、記述文の解釈や日本語訳、記述文についてのコメントを話し合ってもらった。また、その内容を、オンライン上に用意した Google スプレッドシートに記入してもらうようにした。今回はグループ活動用のパソコンを用意しない代わりに、スプレッドシート記入用のアプリをスマホにインストールし、アプリを起動して、音声認識で入力するという方法を実験してもらった。ところが、この活動は担当者が意図していたようにはうまくいかなかった。話し合う内容が曖昧、かつアプリの使用法がうまく伝わらないという 2 つの問題が生じたからである。

そのような困難はあったが、スプレッドシートに記入してもらった内容をここに、A レベルから C レベルに向かって、「低→高い」の順に記載する。

・Pre-A1 および A1 レベルの記述文の日本語訳：「利用できる記述文がない」

・A2 レベルの記述文の日本語訳：「仲介者がわかる内容で、かつ発表者がゆっくりわかりやすく話す場面で簡単なメモを取る」コメント：「メモは単語レベルや自分が気になったことだけで OK？」

・B1 レベルの記述文（下段）の日本語訳：「仲介者が分かっているテーマに関する会議で、型通りの指示のメモをとる。指示は平易な言葉で行われ、メモを取る時間は十分ある」←コメント：「話を聞いて、（自分が？）何をすべきかを理解する必要がある」

・B1 レベルの記述文（中段）の日本語訳：「仲介者が分かるテーマで、分かりやすい言葉とはっきりした発音で行われる簡単な講演会で要点のリスト（箇条書きのメモ）を作る」←コメント：「要点のリストを作るためには、内容をある程度きちんと理解してそこから要点を抽出して書き出すというプロセスが必要」

・C1 レベルの記述文（下段）のスペイン語要約：“A partir de diferentes fuentes orales, puede seleccionar lo más importante”. その日本語訳：「色々な音声情報源から、何が重要な情報なのか選択する」

・C1 レベルの記述文（中段）のスペイン語要約：”Sabe qué información seleccionar incluso cuando desconoce el tema de la conferencia”. その日本語訳：「知らない テーマであっても、何が重要な情報かを判断する」

・C1 レベルの記述文（上段）のスペイン語要約：”Toma notas detalladas y precisas durante una conferencia sobre temas de su interés que también pueden ser

útiles para otros”. その日本語訳：「自身の関心領域の講演中に、もとの内容に近い内容を他の人にも役立つようにメモを取る」

3.　ワークショップ後の考察

今回の講読ワークショップは、担当者にとってはまさに手探りであった。まず、「仲介（西 mediación；英 mediation）」については、『増補版』を読む限り、言葉の通じ合わない 2 者の間に誰か人が介入して相互理解を助けることに限定するのか、当事者が外国語を理解したりさせたりする際に別の表現方法を用いて（つまり、別の表現方法を媒介させて）理解を実現させるのか、明確に見えてこなかった。これは、『増補版』の記述の批判でもなく、自分の読解力の至らなさへの自戒に限ることでもなく、私自身がひとりの読者として、『増補版』に書かれている文章の意味を理解するためにくぐるしかないトンネルであると考えたい。実際、このワークショップの後、数回の例会および 2025 年 2 月の「第 16 回関西スペイン語教師の集い」に参加するうちに、参加者の疑問点やアイデアを共有しながら少しずつ文章そのものの理解も深まっていったと思う。この実施報告は、そのような数ヶ月間のプロセスを経て執筆している。

グループ活動については、前述のように、何をしたらよいかわかりにくい、アプリの使い方がわからない、というコメントを活動中およびその後、複数の参加者から得て、担当者としてはやや意気消沈もしたが、事実として真摯に受け止めていることをこの報告によって示したいと思う。この例会の時点では、日本語版が公開されていることを知らなかったので、読んで文章の意味を理解することからスタートした。参加者には日本人のスペイン語ネイティブもいるので、理解とは訳すことに限られない。このため、記述文のパラフレーズや記述文についてのコメントも含め、グループ内でテーマについて自由に話し合ってもらった。Google スプレッドシートのアプリに音声入力をすると自動的にクラウドのシートに文字化される機能は、少し訓練して利用すれば、グループディスカッションの総括をするには便利と思われる。

最後に、『CEFR 増補版』の「仲介」に関して、このワークショップを通して視界に入ってきた問題点を 4 つ挙げたい。

1 つめは、「仲介」という用語の定義がやや不明瞭ということである。私たちは、このテーマについては最初から「仲介」という日本語訳を受け入れているが、『CEFR 増補版』オリジナル（英語版）の mediation、そのスペイン語訳である mediación という語は、明確な定義づけがなければいろいろな意味に使われうる。「概念の仲介」のように「仲介」という日本語が持つ意味では直感的にわかりにくい使い方がなされると、「仲介」の定義が把握できないまま手探り的に議論せざるを得ない[10]。2 つめは、TADESKA

[10] 外国語コミュニケーションの場面における「仲介」で、私たちがまず思い浮かべるのは、言葉の通じない A と B がいて、その間に両方の言語を知る C が介入して A と B の間の意味のやりとりを助けるということである。しかし、『CEFR 増補版』の「仲介」の章を読んでいると、グループの話し合いにおけるメンバーに期待される役割は、そのような橋渡しではなくグループ全員での意味の共有もしくは構築であ

参加者のほとんどが教えている A1 レベル以下の学生たちが学び行使しうる「仲介」能力がきわめて限定的であるということだ。初級の学習者であっても仲介が必要となる場面はあるかもしれない。「仲介」が現実の外国語コミュニケーションで必要な能力であれば、「能力記述文はない」で済ませてしまってよいとは思えない。3 つめは、言語コミュニケーションの多くが協同構築的に実現されるにもかかわらず、能力は個人のものとして記述されることである。このことにはやや説明が必要である。「仲介」の場面では当事者として 2 つの立場があり、仲介者を含めると 3 つの立場がある。この 3 者が意味のやりとりや共有を協同構築していくと考えるならば、仲介能力を仲介者ひとりだけの技能に帰属させることは、本質的な矛盾を生んでしまう。「仲介する人」と「仲介される人」に分離された時、仲介される人は仲介サービスの受け手になってしまう。「ノートテーキング」にせよ他の能力にせよ、「仲介」能力に熟達する人は、すべての外国語学習者に対して非常に少ないであろう。一方、私たちが初修外国語科目で教えている学生たちの多くが A1 レベル程度とした場合、彼らは「仲介」をする側ではなく、むしろ受ける側になりうるのではないだろうか？しかし、協同構築という観点からは、仲介を受ける人もその構築作業に貢献できるはずだ。4 つめは、この 1 年程度で急速に発展し普及している AI と「仲介」との関係である。「ノートテーキング」は、音が明瞭に聞こえるなどの条件が満たされれば、音声を翻訳しながら文字に変換するということはある程度できてしまう時代になった。この状況を 3 つめの問題点と重ねると、学習者たちは、「仲介」能力を習得するために困難な学習を続けるよりも、AI 搭載のツールの使用に慣れる方が効率的に「仲介」活動を実行できるかもしれない。いや、AI そのものが「仲介」を行うので、人間による「仲介」は必要なくなるかもしれない。教員の立場としては、人による「仲介」の価値を明確化した上で学習者の「仲介」能力を高める指導をしていく必要があろうが、その価値を学習者と共有することは容易ではなかろう。今後の議論に期待したい。

<u>参考文献</u>

（書籍）

欧州評議会（編）、吉島茂・大橋理枝（訳・編）（2004）『外国語教育 II　外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社.

（WEB サイト）

Council of Europe (2020), *Common European Framework of Reference for Languages:*

る。このような使い方では、「仲介」の意味が常識的な意味から拡張されていると考えざるを得ない。定義の曖昧さについては、その後 10 月の TADESKA 例会（担当 Pablo Navarro 氏）や、11 月 29 日にオンラインで実施され私も出席したセミナー “Interpretar, simplificar, reformular: estrategias para el trabajo de la mediación en el aula de ELE”（主催 Grupo Anaya Formación、講師 Alba Cochón Falcón 氏）においても、何が「仲介」で何がそうでないかについては複数の考え方があり、統一的な定義や議論の出発点は設定しにくいことが確認できた。

Learning, teaching, assessment – Companion volume, Council of Europe Publishing, Strasbourg.

Consejo de Europa (2020), traducido por el Instituto Cervantes (2021), *Marco común europeo de referencia para las lenguas: aprendizaje, enseñanza, evaluación. Volumen complementario*. Servicio de publicaciones del Consejo de Europa: Estrasburgo.

各言語版（日本語版[11]を除く）の URL は次のページからアクセスできる。
https://www.coe.int/en/web/common-european-framework-reference-languages/cefr-companion-volume-and-its-language-versions

[11] 日本語版 URL: https://www.goethe.de/resources/files/pdf328/cefr-cv-jap-mit-cover-finale-neu-v3.pdf